

林業経営学科が始動

林業経営学科の紹介

山形県の豊かな森林資源を積極的に活用して地域を活性化させようと、十五人の新入生が切磋琢磨しながら元気に学んでいます。この学科での学びを通して、理論に裏付けされた実践的な技術と長期的な視点で地域の森林経営をプランニングできる力を身に付けた、地域振興の中核を担うたくましいスペシャリストを育てていきます。



一年生の抱負

林業経営学科は今年度新設された学科で、現在十五人の一年生が学んでいます。講義・実習の内容は、伐採技術や高性能林業機械の操作、測量等から森林を利用し守り育てていくための知識や技術までと広範囲に及んでいます。

第一期生としての期待に応えられるよう、十五人で力を合わせて将来の森林・林業を担う技術者をめざし頑張つていきます。

(村山 裕貴)



2学年の卒業論文、本格化 《私の取り組む卒論》

◎稲作経営学科・遠渡 響

私の卒論は飼料米の多収と飼料用稲による牛の水田放牧をテーマに取り組んでいます。多収試験は「雪化粧」を用い、堆肥や単肥を組合せた施肥で750kg/10a以上の収量が目標です。生育は順調で、秋の収穫が楽しみです。水田放牧は八月三日から行っており、問題なく食べてくれています。今後、経営評価を行います。



◎果樹経営学科・渡辺 裕太

現在、山形県ではおうとうの大玉生産に力を入れています。そこで、3Lの紅秀峰が成る結果枝を明らかにすることにより、大玉生産技術の向上を図り、地域や栽培農家に貢献したいと思いいこの卒業論文に取り組んでいます。今年は結果が大変良く摘果作業が大変でした。これからも管理作業、まどめを頑張ります。



◎野菜経営学科・石井 雄士

私は「系統、灌水、肥料がセルリーの食味に与える影響」という卒論に取り組んでいます。苦労しているのは、灌水量や頻度を天候や土壌水分に応じて調整するのが難しく、また、病害虫が発生しやすいので、防除が大変だということです。この経験を卒業後のセルリー栽培に活かせるよう、勉強していきたいと思っています。



◎花き経営学科・早坂 真奈

私は、ヒマワリについて三つの試験を行っています。一つ目は施肥方法、施肥時期の違い、二つ目は栽植密度の違い、三つ目は切り花の日持ち試験です。花き経営学科は人数が少ない学科ですが、人数が少ないからこそみんなのまとまりが良く助け合える学科です。これからも互いに支え合いながら頑張つていきます。



◎畜産経営学科・鈴木 愛花

私の卒論は、学校給食の残りご飯と廃棄されるスイカを飼料化して牛に給与し、牛肉の付加価値と食味を向上させるための研究です。現在、農大の食堂で余ったご飯を実際に農大の肥育牛に給与しています。また、スイカを液状化して飼料米に混合した「スイカ米」の給与試験を村山の肥育農家で実施しています。



◎農産加工経営学科・奥山 美里

私は卒業論文で、ハーブの加工品開発について研究しています。需要を把握するためにアンケートをとり、目標とする販売先ごとに加工品を決めました。現在は加工品に使用するための乾燥方法の検討を行っています。今後は、レストラン向け・直売所向け商品を作り、評価をしてもらい、最終的には販売するので頑張りたいです。

